附記――この小篇は『トーテミズムの諸相』（「人文科學」第一卷第一・二號昭和二十一年）の續篇となるものであるが、その前篇が未完結のまま中斷されてをり、從つてそれに直接に連續しない關係にある。しかし本論はトーテミズムのオーストラリアにおける現實的形態の現象的分析として獨立した體裁をもつてゐる。トーテミズムに關する一つの例證的敍述として理解して頂ければ幸である。

彙報

哲學茶話會

上田泰治君「イゾモルフィスム」

時　昭和廿四年十月八日（土）　午後一時

處　北白川小倉町　人文科學（舊東方文化）研究所講堂

會費　三十圓

久しく中絶して來た哲學茶話會（京都大學文學部哲學史教室研究發表會或談話會）を復活する運びにいたりました。關係者各位の御來會を得て斯學の進運に寄與するところあらんことを祈願してをります。

直接御案内申上ぐべきでありますが名簿不備のため却て御通知もれの多からんことを惧れ紙上を以て御挨拶に代へます。

京大　哲學哲學史教室

前號目次

アリストテレス存在論の基礎構造について（承前）……文學士　岡野留次郎

オーストラリアのトーテミズム……文學士　堀　喜望

聖アウグスチヌスに於ける同心の問題（完）……文學士　山田　晶
―秩序の問題（承前）―